



岡本眞利子 議員
(政清会)

問 明野ヶ丘公園の再整備基本計画の状況は

答 プロポーザル方式により業者を選定しワークシヨップなど業務を進めている

問 明野ヶ丘公園は昭和52年から整備が始まり平成2年に全面供用、平成8年には開基百年記念事業として展望施設「ピラ・リ」が建設されるなど多くの町民が訪れていたが、老朽化が進み、今年度、再整備基本計画の策定が進んでいる。より多くの町民が親しめる公園になることを求めて次の点を伺う。

- (1)再整備基本計画の面積を「ピラ・リ」周辺の7畝とした理由は。
- (2)開基百年記念のシンボル施設を検討したワークシヨップ参加者に、今回の再整備計画への参画、提言を求める考えは。
- (3)今回の基本計画策定期間では、策定までの期間が短すぎるのでは。
- (4)傾斜広場(スキー場)の今後の利用と集客方法は。

町長 (1)主に丘の上の平らな部分となる7畝を委託業務の面積として発注した。また、スキー場は、今後の在り方について別途検討することが望ましいと考えている。

現在進めているワークシヨップにおいて、7畝に限らずスキー場やその他傾斜地部分など、全体の活用方法について様々なご意見をいただきながら進めている。

- (2)平成7年の百年記念シンボル施設を検討するワークシヨップの参加者の中で、今回のワークシヨップに参加いただける方がいれば、是非参加いただきたい。今回のワークシヨップに参加いただき、一緒に話し合いを進める中で意見をいただければと考えている。
- (3)業務発注にあたって、プロポーザル方式により業者を選定している。参加業者にはワークシヨップを含む業務期間について確認し、どの業者からも遂行可能な期間と回答をいただいている。業務期間が短すぎるとは考えていない。
- (4)雪不足のためオープンが大幅に遅れるなど、スキー愛好家の方々、小学校の授業やスキー少年団の活動に大きな支障が生じ、期待に答えられない状況が続いており大変心苦しい思いである。初心者を含

現在進めているワークシヨップにおいて、7畝に限らずスキー場やその他傾斜地部分など、全体の活用方法について様々なご意見をいただきながら進めている。

めた町内外の方が利用しやすいスキー場として活用されるよう努める。

再質問 公園面積の25畝全体を考える基本計画とし、その後、実施計画で最小限の面積とする考えは。

答 明らかに手をかける必要のない所も含めるとその分の委託料が必要になる。ワークシヨップの中の意見を踏まえ、町としてもその意見を受け止めていく。

問 子どもの弱視対策を

答 3歳児健康診査時の視力検査の徹底と支援を行う

問 斜視や強い遠視によって視力が育たない「弱視」の子どもは50人に1人の割合でみられる。厚生労働省は3歳児健診時の視力検査の徹底を促している。本町の視力検査について伺う。

(1)本町の3歳児健診での視力検査の現状と課題は。

- (2)保護者への弱視についての重要性の周知・啓発は。
- (3)視力検査の機器(スポットビジョンスクリーナー)導入の考えは。

町長 (1)一次検査として家庭において問診記入と絵視標での視力検査、二次検査は健診会場で問診記入内容と視力検査の結果確認のほか、家庭で十分な検査ができなかった場合は再検査を行う。課題は精密検査が必要と判断されても受診がされず、治療の必要性の判断が遅れることが挙げられるが、2か月以上精密検査の報告がない場合は、保護者と連絡をとり再度受診勧奨を行っている。

- (2)本年11月に導入した「まくべつ子育てアプリ」を活用し、わかりやすい動画やイラストを用いて更なる周知、啓発に努める。
- (3)現在実施している視力検査の実施の徹底、精密検査の対象となつた方には必要な治療につながるよう支援を行う。機器の導入については研究をしたい。



絵視標を使った視力検査
(日本弱視斜視学会HPより)